

いな穂

Vol. 10

令和2年
3月号

基本理念

自由（個人の尊重を重視）、
自立（社会支援の積極的な取り組み）、
愛（思いやり溢れるサービスの提供）
を不変のテーマとした医療・保健・
福祉の実践

基本方針

地域に根ざした医療、人にやさしい医療を
確立し、向上心をもって常に努力する

七指針

1. 生命尊重に徹すること
1. 事故防止に努める事
1. 常に創意工夫を怠らないこと
1. 能率増進を図る事
1. 常に融和連携を保つこと
1. 消費節約に努める事
1. 行動記録を的確に記すること



かのえね
令和2年 庚子

医療法人慧眞会 理事長 穂積 慧

植物が循環する様子を表している十二支の1番目に「子」が来ているように、子年を植物に例えると新しい生命が種子の中に兆しを始める時期で、新しい物事や運気のサイクルの始まる年になる。

2020年オリンピック、パラリンピックの年であり、スポーツの祭典が行われ、人々の叡知と努力が問われる時でもある。慧眞会においても同じで今までの35年を土台として、これからの50年に向けて躍進してゆかねばならない。皆で助力し合い目標に焦点を絞りこんでゆかねばならない。

協和病院



ご挨拶

協和病院 院長 関根 篤

人はその時々、立ち位置によって、考え方や訴えを変える必要があることがあります。例えば、弁護士さんはクライアントの立場によって訴える角度を変える必要に迫られることが少なくないため、自分の価値観や職責を保つのが難しい仕事のような気がします。一方、医師は患者さんによって対応を大きく変えることは少なく、その職責は患者さんが患った病気の改善に向けて精一杯努力するという普遍的価値観のもとに展開されていると思います。

そのような医療中でも、私が携わっている精神医療は、

他の診療科と趣（おもむき）が若干異なる気がします。例えば、精神疾患の診断には、血液生化学検査等を用いた生物学的指標がほとんどないため、診察する医師の価値判断によって診断や治療方針が変わることがあります。また、医療における医師患者関係においても、医療提供が医師から患者さんへの一方向ではなく、お互いが対等の立場で医療を展開していく双方向である点は違いの一つと感じています。

一般的に医学は科学的学問と捉えられますが、精神医学は中でもより人間臭い、人文学的な診療科であるような気がします。したがって、精神医療をより良く展開していくためには、患者さんの訴える症状や病気ばかりにとらわれず、患者さんの個性に合わせる弾力性や柔軟性を持ち、「人を診る」視点が重要だと考えています。

最後に、その時々、立ち位置によって考え方や価値判断を変えることが許容される現代社会の中で、自分自身を見失わないためには、自分を良く知ろうとする内省的姿勢、人の話を良く聞こうとする謙虚な姿勢、自己愛を肥大させない自制的姿勢が重要ではないかと考えています。



2019. 納会での手締め、左から2人目が関根院長 中央が新井常務理事

協和病院のご案内

<診療時間> 午前9:00～12:30 午後1:30～5:00

<休診日> 土曜、日曜、祝日

<届出している施設基準>

- 療養病棟入院基本料1(57床) ●精神療養病棟入院料(120床) ●医療安全対策加算2 ●入院時食事療養費(Ⅰ)
- 感染防止対策加算2 ●患者サポート体制充実加算

【内科】 ●療養病棟療養環境加算1

【精神科】 ●精神科作業療法 ●医療保護入院等診療科 ●重症者加算1 ●退院調整加算 ●精神科地域移行実施加算

【外来】 ●ニコチン依存症管理料



TEL:018-892-2881 FAX:018-892-2888 〒019-2413 大仙市協和上淀川字五百刈田 277 番地 1

看護部

内科病棟勤務で思うこと

協和病院 1A病棟看護師長 今野 尚子

協和病院内科病棟は、長期療養を要する患者さんや終末期の患者さん、また内科的治療を要する患者さんが入院しています。

私は同法人に勤務して20年が経ちました。精神科病棟、内科病棟を経て有料老人ホームに勤務、そして3年半前再び内科病棟に異動となり、現在に至っています。内科病棟は以前と比較して、歩行できる患者さんや車椅子に乗車する患者さんが少なく、ほぼ9割が寝たきりの患者さんで、意思疎通が困難な方が圧倒的に多くなりました。また看取りのケースが多く、入院退院の入れ替わりが早いと感じます。そんな中、あつてはならないことですが、知らず知らずのうちに私達は、自分達のペースで看護、介護を行っていたような気がします。動けない、意思疎通が出来ないからこそ、ご家族との関わりが大事になります。ご家族の思いをくみ取り、寄り添った看護、介護を提供する、それはとても難しさを感じますが、そうでなければいけません。

私の看護の姿勢・想いは20年前と変わってはいません。寝たきりであろうが、歩ける人であろうが、意思疎通が困難であろうがなかろうが、患者さんと向きあい丁寧に対応することです。そしてご家族とコミュニケーションをとり、誤解のない様にする事です。コミュニケーションをとるのがやや苦手な私ですが、上手な人の接し方をみて学び、また失敗も経験として活かし、今後の対応に役立てていきたいです。



「生きる」「死ぬ」「生活する」ことに関わる私たちの仕事、一人ではなくさまざまな人達と協力して、少しでも満足した療養生活を送っていただける様に、病棟一丸となり誠意を持って丁寧に接していきたいと考えます。

医務部の紹介

協和病院医務部は六つの科より構成されています。各科を簡単に紹介いたします。

【放射線科】

使用機器は、一般撮影装置・TV装置・骨密度測定装置・ポータブル撮影装置です。年間約1200件を、診療放射線技師1名で撮影しています。

患者さまが安心して検査ができる様、環境整備を図りサービス向上に努めています。どうぞよろしくお願い致します。

【臨床検査科】

当院でおこなわれている臨床検査は、尿定性検査・尿沈渣細菌検査、心電図・脳波・聴力検査、インフルエンザ簡易検査などがあります。

血液検査、細菌検査その他は外部委託検査となり、伝票や検体の確認と結果の確認をしています。

【薬剤科】

薬剤科は、薬剤師3名・助手1名で、調剤・注射業務、病棟業務、医薬品情報、薬品管理を実施しています。

薬の専門家として、薬物療法の有効性と安全性の向上に貢献できるよう日々研鑽に努めています。

薬に関する疑問・不安などございましたら、遠慮せずにご相談ください。

【栄養科】

当院の栄養科では、患者個々の身体状況に合わせた栄養管理を管理栄養士2名で行っております。

精神療養病棟と内科療養病棟の患者層は年齢・病状など多岐にわたりその食事の対応も様々ですが、他の職域と情報共有しながら業務を行っております。

また、給食業務は(株)秋田キャッスルホテルに委託し毎日の食事を提供していただいております。

個々の栄養状態を考慮しまた患者さんのニーズに答えながら、少しでも美味しく楽しい、そして安全な食の提供を心がけています。

【作業療法科】

作業療法はリハビリテーションの治療の一つです。

その中で、精神科の作業療法では、「やる気がでない」「集中できない」「人との関わりが苦手」などの状態にある方々に、運動や創作活動などを行います。

体を動かすことはリラックス効果があったり、物を作ることは集中力を高め、脳の活性化を図ることができたりと、人間が活動することで得られる効果があります。

利用されている方が「生活する力」を持てるように、お手伝いしたいと思っています。

【地域支援連携室】

地域支援連携室は、医療連携、医療社会事業及び医療相談、心理臨床など、多くの機能が統合された部署です。

治療や健康の維持増進を、社会的・心理的な側面から支援することを目的に設置されています。

精神保健福祉士・社会福祉士・公認心理師が、業務を行っております。

また、精神科の新患は原則予約制となりました。お問い合わせ申し込みの際は地域支援連携室までお問い合わせください。



ケイメンタルクリニック

所長就任にあたって

ケイメンタルクリニック所長 佐々木 道基

令和元年10月よりケイメンタルクリニックの所長に就任しました。精神科医になり約22年になりますが、これまでの業務は病院で入院医療が主でしたので、クリニックの勤務は自分にとっては初めての挑戦であり、このような機会を与えていただいたことに大変感謝しています。

ケイメンタルクリニックは平成17年に開設された、精神科・神経科・心療内科の無床診療所です。秋田県南部の交通の要所である大仙市大曲の中心部に位置し、大曲駅から徒歩1分の場所にあります。立地の良さや予約制診療による利便性、長年の地域での活動や協和病院の関連病院という信頼感などもあり、患者さんは大仙市にとどまらず、秋田県南部全域から、児童・思春期から青年・働き盛りの世代、高齢者と幅広い年齢層の方が来院しています。令和元年は外来延べ患者数15308人、うち新規患者数362名と多くの方が当院を受診されました。

昨今では精神疾患についてテレビやインターネット等のメディアで取り上げられることも増え、一般の方の理解、関心も高まっていますが、病気について正しく理解し、安心して治療を受けていただくために、診察の際は患者さんやご家族に、わかりやすく、丁寧に説明することを心がけています。精神科治療の目標は患者さんの症状の改善のみならず、患者さんが社会の中で役割を担って、満足感を持って暮らしていくといったリカバリーも重要です。2階で実施している精神科デイケアには40人ほどの登録があり、1日平均約8.6人の方が利用されています。

当院は地域に根ざし、患者さんやご家族に寄り添い共に歩んでいくことが大切と考えております。常勤医である所長をはじめ、臨床経験の豊富な4名の非常勤医と看護師3名、事務職員2名、作業療法士・精神保健福祉士各1名、臨床心理士1名の体制にてチーム医療に取り組んでおります。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



TEL:0187-66-3020 FAX:0187-63-0041 〒014-0027 大仙市大曲通町10番8号

サンメンタルクリニック

アプローチ

サンメンタルクリニックは四歳になりました。できることが増えました。

外来通院はもちろんのこと、訪問看護での健康面、生活面へのアプローチ。
精神科デイケアからの様々なプログラムを通して、楽しみながらのアプローチ
居宅介護支援事業所からの医療及び介護の両面からのアプローチ。
相談支援事業による障害サービスへのアプローチ。
初期認知症集中支援チームも活動し認知症の方への早期アプローチ。
関係機関との密な連携にてアプローチ・・・
・・・スタッフ一同、会心の笑顔でアプローチ。
多面的なアプローチを行い、皆様の健康を祈ります。

来所される皆さんの生活、健康、身近なこころの悩み事をお気軽に相談して頂いて解決の糸口が見つかるようにお手伝いさせて頂いております。

安心して来所していただけるようにアットホームな雰囲気づくりを大切にしておりますので気になることがあったらお気軽にご相談ください。



スタッフ一同

居宅がサンメンタルクリニックへ吸収合併されてから4年目を迎えます。医療と介護の連携の場として充実した日々を過ごしています。ケアマネの人員も3名に増殖して、在宅介護生活を送る方々への支援に動いております。

ある日突然に要介護状態になり戸惑いや不安を抱えて相談に来られる家族、本人、双方の様々な悩みや相談と一緒に乗り越えていく気概で取り組んでおります。ケアマネの役割も、もはや家族のような立ち位置に変化し、同居、家族と同居だが家族が病気、遠方にいる息子や娘の代わりに動く場面が多くなってきています。

入退院支援でのケアマネは必要不可欠になっており、信頼関係をもって動いております。サングレイス居宅は慧真会の看板を背負っています。その信頼に足る支援を行い、評判を落とさぬようかなりの忬度をしながら邁進する所存です。

ラグビーチームのワンチームは人々におおきな感動を与え、以前からのファンを凌駕する事態になっています(チケットが入手困難な緊急事態)にわか代表の管理者としてはトッパリーグの試合を観戦したいのでチケット入手に手をまわしているところです。

居宅もサンメンタルクリニックとのワンチームで今後もスクラムをがっちり組んでいきます。こうご期待！！！！！！

サングレイス居宅介護支援事業所の管理者より

TEL:018-838-4862 FAX:018-838-4863 〒019-2413 大仙市協和上淀川字中嶋33番地 やすらぎの里内

介護老人保健施設 サングレイス

思うこと サングレイス管理課 施設管理係 鈴木 立

サングレイスが開設されたのが平成9年7月。既に世紀をまたぎ、年号改元も経験し相当年季が入ってきたように思えますが、人間で言えば23歳。意外と若いかもしれません。

自分が着任してから10有余年、当施設一筋なので随分経験を積んだ筈ですが未だに能力不足を痛感し1年目の挨拶と同じく「毎日至らない思いをしながら」働いています。

自身の居場所は全く変化無しですが、周囲ではどんどん人が変わり、業務は少しずつ増えていくのを膚でひしひしと感じます。見慣れたベテランの顔が消える度に、自分の内の不安まで勝手に増殖させてしまい、落ち着かせるのに難儀しています。

幸い今年は例年に無い、というより初体験の暖冬少雪で、雪掻きには大変業を(2週間ばかり除いて)させて貰いました。スキー場や除雪業の方、行事を期待していた人達には申し訳ないのですが、豪雪は度々なのだからたまには少雪の年もあってよい、と主張したいのです。

あと、今更ですが、一人新戦力が加わった事で大変心強く感じています。経験も豊富そうで、こちらが頭が上がりません。

とりとめの無い文章になってしまいましたが、師走もお盆も関わりなく慌ただしい日々の脳内をそのまま記してみました。来年度がより成長した、と認識できる年になるよう思いつつ、今日も仕事に臨みます。



サングレイス 今年は暖冬少雪でした

お正月、正面玄関に池坊秋田支部長 石和田あや先生が「生け花」を展示してくださいました。縁起のいい花材に華やかな色彩のバランスが、訪れる人達にうるおいと安らぎをもたらしてくれました。石和田先生、毎年ありがとうございます。



石和田先生



石和田先生の作品

TEL:018-892-3260 FAX:018-892-3663 〒019-2413 大仙市協和上淀川字五百刈田 278 番地 5

介護付有料老人ホーム サンフェザント

有料老人ホームにおける終末看護の役割

生活科長 高橋 英樹

早い物で、サンフェザントへ異動となってから4年になろうとしています。その間に老衰等で亡くなられた方もおりました。

そこで、自分の中で看取りについて勉強したいと思い研修会に行ってきました。有料老人ホームにおける看護の役割は病院とは違うもので、その人が最後までその人らしく生活出来るよう援助していくとの事でした。実際、むせたりして食事が摂れなくなり、連日点滴や吸引を行ったケースがあります。病院で勤務していた事もあり、それが当たり前の様に考えていました。しかし、尽力しても亡くられる時もあります。その時は「もっと何か出来たのではないか?」と考えました。講師も同様な考えを持っていたとの事でした。しかし、最期に点滴のため内出血をしている腕や、吸引で出血した口を見た際に「この人にとって、あれで良かったの?」と居た堪れない思いになったそうです。「最後は綺麗な体で送ってあげよう」「ここ(施設)は治療の場では無く、生活の場なんだ」と思い、日頃から出来るケアとして、食事が摂

れなくなった場合はご家族と相談し、好きな物を食べられる範囲で提供していく。点滴等で治療を優先したいならば病院を紹介する。喀痰吸引が必要ならば、口腔ケアで喀痰の除去に努めリスクを減らす等を行っていったとの事でした。

研修を終えて、今までの事を振り返り「同じようなケースは一杯あったな」と思いました。これが正解という事は誰にも分からないですが、その人が最後に「良かった」と思えるような看護やケアを提供していければと思います。



●サンフェザントご利用相談窓口

サンフェザントでは、ケアマネジャーが常時ご相談に応じしています。介護保険のことであれば、入居のご相談以外も受け付けますのでお気軽に声を掛けてください。

TEL:018-853-8990 FAX:018-892-3033
〒019-2413 大仙市協和上淀川字五百刈田 277 番地 5
URL: <http://www.keishinkai.net/>



グループホーム サンエルフ

ホーム長 菅原 裕子

令和2年1月末現在、72歳から96歳までの18名の方がサンエルフに入居しております。18名の方々の日常の様子を紹介します。

現在の入居者の状況	要介護度	認知症の種類
男性 4名	要介護1 10名	アルツハイマー型認知症 13名 混合型認知症 1名
女性 14名	要介護2 6名	脳血管性認知症 2名 アルツハイマー型・レビー小体型認知症 1名
	要介護3 2名	レビー小体型認知症 1名

- ・冬至にはゆず湯に入ってもらいました。ゆずの良い香りがして体が潤い温まったことでしょう。これでかぜをひきませんね。
 - ・ホーム内や自分の居室の掃除をしてもらいます。できる方には掃除機をかけたり雑巾で拭いてもらいます。しゃがんだり腕を伸ばしたりと体を動かします。終わると、自分でやり終えた満足気な表情になります。
 - ・クリスマスには男性の入居者がサンタクロースに変身し、入居者全員にプレゼントを渡してくれました。突然のうれしいできごと喜んでいました。
 - ・時々習字をしており、今回は「正月」「迎春」と書いてもらいました。写真は入居者の方が書いているところです。筆の持ち方、左手の紙の抑え方が経験を物語っています。
- 入居者の方が今できていることができるだけ長くできますように、スタッフは日々関わっています。令和2年、よろしくお願いします。



ゆず湯



掃除中



習字



サンタクロース

TEL:018-881-6565 FAX:018-892-3639 〒019-2413 大仙市協和上淀川字五百刈田 277 番地 1

グループホーム ケイハウス水仙・なごみ（共同生活援助）

マックスバリュ東北(株)様よりご厚志をいただきました。 サービス管理責任者 高橋 大輔

●2018年4月から行われておりました「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」が2019年2月で終了し、マックスバリュ東北(株)様よりご厚志をいただきました。

●昨年(2018年)の5月15日(木)、贈呈式が行われました。当日は、県内の登録された20の団体が集まりました。



マックスバリュ東北(株)代表取締役社長 佐々木智佳子 様のご挨拶

●「イオン社会福祉基金」より2月3日節分の日にご支援をいただきました。当日は、マックスバリュ協和店の皆さんにお手伝いをいただき豆まきを行いました。また、患方巻き、福豆、飲料水等のご提供を頂きました。

協和店の皆さんには、これからも地域の応援団として温かく見守っていただければと思います。



贈呈式の風景

ケイ総合ケアセンター(障害福祉サービスの複合施設) …… 〒019-2401 大仙市協和境字荻谷沢10 TEL:018-881-6166(代)

- 自立支援指定相談支援事業あさひ
- グループホーム ケイハウス なごみ(共同生活援助)

○グループホーム ケイハウス 水仙(共同生活援助) …… 〒019-2411 大仙市協和船岡字大袋1の34 TEL:018-892-3011

慧眞会合同研修会が行われました

2月15日(土)、協和市民センター「和ピア」にて法人の合同研修会が行われました。職員およそ90人が参加し、各部署より様々な工夫をこらした研究発表が行われました。

午後からは特別講演として、秋田ノーザンハピネッツ株式会社、代表取締役社長 水野勇気 先生より、『バスケで秋田を元気に』～ゼロからの挑戦～と題してご講演をいただきました。水野先生のお話にも職員も刺激を受け、フロアからは活発な質疑が行われました。

この研修会を通して各部署から発信された情報を共有し、スキルアップはもちろん法人内での効率的な連携力が構築できればと思います。

研究発表は次のとおりです。

- ①間質性肺炎における呼吸不全でNPPVを装着した患者との関わり
- ②30年間自宅にひきこもっていた一例
- ③シカガ糖を継続摂取したことで便秘が改善し、精神状態の好転につながった1事例
- ④発達障害の検査特徴に関する一考察(WAIS-III「絵画完成」を中心に)
- ⑤アナムネ聴取で心掛けていること
- ⑥デイケアで大切にしていること～「大きなお世話」にならないように～
- ⑦サンエルフの日常
- ⑧介護老人保健施設における現状と在宅復帰への支援
- ⑨安心して生活できる施設を目指して～相談員としての関わり～

特別講演

『バスケで秋田を元気に』～ゼロからの挑戦～

秋田ノーザンハピネッツ株式会社、代表取締役社長 水野勇気 先生



穂積理事長による開会の挨拶



各部署から工夫をこらした発表が続きました



質問を受ける発表者



水野先生による特別講演会の風景です。あっという間の90分、「最高の勇気」をいただきました。

『慧眞会祭』を開催しました



抜けるような青空となりました



恒例の出店紹介です

令和元年10月5日(土)、恒例の慧眞会祭を開催しました。前日まで台風の影響が心配され早朝には小雨がみられましたが、開会時には天気予報を覆す抜けるような青空が広がり、およそ180名の方々にご来場いただきまして盛大に行うことができました。これも、皆様方のご支援とご愛顧によるものと心より感謝申し上げます。

また、ケイメンタルクリニック 佐々木所長による特別講演会にも、会場に入りきれないほどのたくさんの方々にお集まりいただきました。重ねて御礼申し上げます。



角館飾山囃子の皆さんです。会場は一気にお祭りムードになりました



ブラボー中谷さん、ステージから降りて子どもたちにサービスしてくれました



お楽しみ「大抽選会」、理事長賞は4K内蔵大型カラーテレビ、会場は一瞬静まり返りました

編集後記

例年であれば、インフルエンザの流行がピークを迎えるこの時期、今年は患者数が抑えられているとのこと。

これは、歴史的な暖冬の影響とのことだが、今世界がざわついている「新型コロナウイルス」への予防意識も影響

しているのではなだろうか。

ウイルス対策を行う理由を尋ねたところ「家族のため」と答えた人が8割いたとの調査がある。自分の身を守るためでなく「家族のため」と答えるところがなんと日本人らしいところか。

まだまだ流行期が続きます。感染予防をしっかりと！

(O.S)

患者さんの権利に関する宣言

1. 患者さんは、良質な医療を受ける権利を持っています。
2. 患者さんは、十分な説明を受けて治療を選択する権利を持っています。
3. 患者さんは、自己決定ができない状況にあるときには、法律上の代理人が同意する権利を持っています。
4. 患者さんは、治療に不安や疑問を感じた時には他の医療機関に意見を求める権利を持っています。
5. 患者さんは、治療や処遇に関する不満があるときには関係機関に意見を求める権利を持っています。
6. 患者さんは、自分自身の大切な情報が保護される権利を持っています。
7. 患者さんは、病気になるって初めて得られる大切なことを探す権利があります。

